

巻頭言 

「今、作業療法士に求められること」

第29回大阪府作業療法学会 学会長 吉田 文
(大阪保健医療大学)

大阪府作業療法士会にとって、今年度は大きな変化の始まりの年です。長年にわたり会長を務めてくださった長辻永喜氏が退かれ、新しく上田任克氏が会長に就任されました。理事にも新しいメンバーを迎え、今学会が上田会長の下で始動した大阪府作業療法士会が催す初めての府学会となります。そして、来年は府学会も記念すべき第30回。変化の流れを大きなうねりとし、第30回へとつなげていくことができればと思っています。

そのためには、私たちは変化に対応しなければなりません。変化は様々なところで起こっています。作業療法という仕事や仲間、対象者、社会の求める変化に対応出来るだけの力を身につける必要があります。では今、私たち作業療法士に求められることとは何でしょうか?その答えは学会のプログラムから見つけていただければと思います。

府民公開講座では、認知症初期集中支援チームという観点からも注目すべき「認知症」をとりあげました。医療側の視点と生活者や家族の一員として認知症の方を捉える視点を交えて、「認知症」の方が安心して地域で暮らすために重要なことを府民の皆さんと考えていきたいと思

います。医療の立場から医師の大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室講師 数井裕光氏、認知症の方の家族の立場から「認知症の人と家族の会」大阪府支部副代表 木寺喜義氏、リハビリテーションの立場から大阪府作業療法士会会員、関西福祉科学大学、横井賀津志氏にお話し戴きます。

脳機能について学ぶ教育講演では、講師に大阪府立大学、西川隆氏をお迎えします。また、若手企画「ほんまでっかOT」や府士会企画「生活行為向上マネジメント」などのランチョンセミナー、学術研究会報告や就労支援・園芸療法・フラダンスのワークショップ、一般演題も30演題ほど発表される予定です。災害対策委員会の展示もあります。柔らかい内容から真面目な内容まで今私たちに求められていると思うことを取りそえてお待ちしております。

府学会に来れば、「ああ、こんなに求められている作業療法士になって良かった」、「もっと作業療法士としての力をつけなければ」と思うはず。そんな学会を目指します。

どうぞ、皆さまご参加ください。

